



日本初の「ホープスポット」に沖縄 辺野古・大浦湾一帯が認定されました

～稀少なサンゴ礁とジュゴンの生息地として～

(日本) 2019年10月24日

米環境 NGO ミッション・ブルーは、本日 24 日、日本初の「ホープスポット (Hope Spot : 希望の海)」として、沖縄県名護市辺野古・大浦湾沿岸域一帯 (※) が登録されたことを発表しました。ミッション・ブルーは世界的な海洋学者として名高いシルヴィア・アール博士が率いる NGO で、世界的に重要な海をホープスポットとして登録し、保護の網をかけることを 2009 年から実施しています。ホープスポットは世界で約 110 カ所以上が登録され、辺野古・大浦湾一帯が日本で初めての登録となります。

※対象の範囲は、辺野古・大浦湾を中心にした天仁屋から松田までの 44.5 平方キロメートルの海域です。

辺野古・大浦湾一帯は自然の宝庫ですが、まだその価値は十分に認識されていません。この内湾にある小さな島々はアオサンゴ群集 (*Heliopora coerulea*) が生育できる北限に位置し、この海域に潜るダイバーはアオサンゴ群集を初めとする稀少な生物を観察することができます。この特徴的なサンゴのホットスポットは、広く知られてはいませんが、豊かで多様な海洋生態系を支えています。その海域には 5,000 種を超える生物が生息し、そのうち 262 種が絶滅危惧種として知られています。新種や日本初記録種が最近になり確認され、科学者はまだ発見されていない生物が生息している可能性があると考えています。

沖縄では第二次世界大戦以降、米国が軍事基地を維持してきました。そして今、辺野古・大浦湾、そして沖縄本島に狙いを定めています。残念ながら、米軍普天間飛行場の移設計画の初期段階はすでに進行しています。工程は広範囲に及び、2014 年 8 月に海底ボーリング調査 (埋め立て本体工事の準備) が実施され、2017 年 4 月に実際の工事の開始、2018 年の 12 月には海域の埋め立て工事が始まりました。

ミッション・ブルーは、辺野古・大浦湾一帯が日本で最初のホープスポットとなることを誇りに思っています。この海域の重要な生物多様性、希少なサンゴの個体群を評価し、そして実行可能な保護の取り組みを通じて、この海域の海と生き物を米軍の新基地建設と将来のさらなる開発から守ろうとするたたかいを讃えます。

ミッション・ブルーの創設者で海洋学者のシルビア・アール博士は「辺野古・大浦湾には数千種もの生物が生息しています。の中には、有名なアオサンゴ群集やジュゴンも含まれています。人々は、一度失ってしまったら回復することのできない場所を保護することの大切さと比較して、先行きのわからない新基地建設に疑問の声を上げることが重要です。この地域の重要性について人々の関心を集めることに尽力した『ホープスポット・チャンピオン』を祝福します。辺野古・大浦湾を保全し保護することができれば、それは日本の人々だけでなく全世界の人々にとって素晴らしい贈り物となるでしょう」と祝福の言葉を贈りました。※「ホープスポット・チャンピオン」とは、ホープスポットの「守り手」を意味します。

ホープスポット・チャンピオンとなった、日本自然保護協会の安部真理子氏は「私たちは辺野古・大浦湾をホープスポットが認定されたことを受け、海の保全のお手本となるようにし、持続可能な観光と教育の場にして行きたいと思います。これらの価値を次の世代に伝えたいと願っています」と抱負を述べました。

辺野古・大浦湾沿岸域のホープスポットは44.5平方キロメートルに及び、沖縄県の沖縄本島に位置しています。この海域には辺野古岬、安部オール島、長島、平島も含まれています。辺野古・大浦湾のある琉球列島はサンゴ礁生態系の北限です。

調査によって、ナマコ (*Holothuroidea*) の未記載種2種や、カイメン、クラゲムシ、ウミウシ、カニなどの未記載・未記録種が報告されています。多くの未記載種が最近になって報告されていることから（そのうち11種は2007年以降に新種として記載された）、この海域の種多様性は現在認識されているよりももっと高い可能性があります。辺野古の米軍キャンプ・シュワブの南にある海草藻場は173ヘクタールに及び、沖縄本島周辺では最大です。この海草藻場で確認されている7種の花葉藻（日本自然保護協会、2008年、2012年）は全て環境省のレッドリストにおいて準絶滅危惧種とされています。これらの花葉藻はジュゴンやウミガメの餌となるだけでなく、多数の生物が幼生期を過ごす重要な生息地としても知られています。

生物多様性の観点からも、辺野古・大浦湾海域は極めて重要な地域としてこれまでも認識されています。沖縄県は自然環境の保全に関する指針でも評価ランク1の「自然環境の厳正な保護を図る区域」に指定しています。一方、日本の環境

省も 2010 年 9 月にラムサール条約湿地の潜在候補地として大浦川とその河口域のマングローブ林を選定しました。

環境省はこの海域を「日本にとって生態学的及び生物学的に重要な地域」と指定しています。しかしながら、日本政府にはこれらの指定された海域を自然保護区にする意図はありません。辺野古・大浦湾はそのことを示す重要な例で、現在、その海域では埋め立てが行われています。

安部氏は「私たちは、この新しいホープスポットの認定が、辺野古・大浦湾一帯を、環境、平和、人権のつながりを理解し促進するための、地域の中心になることを信じています」と強調しました。

辺野古・大浦湾を、米軍基地のさらなる開発から保護し、歴史歴な価値のある「地球上の青い緩衝地帯」について人々が学ぶことは、日本だけでなく次世代の人々の全てに利益をもたらします。失われてしまったものを置き換えることはできません。今こそ、私たちがわかっているように、地球の生命を形づくる上で重要な役割を果たす自然の素晴らしさを認識し、保護のために行動をおこすべき時です。

ミッションブルーについて

著名な生物学者シルビア・アール博士が率いるミッションブルーは、世界規模の連携をかたちづくり、Hope Spots と呼ぶ海洋保護の世界的なネットワークに対する人々の認識を高め、アクセス、サポートを行うことを目的としています。アール博士の指導のもと、ミッションブルーのチームはコミュニケーションキャンペーンを行い、ドキュメンタリーの作成や、ソーシャルメディア、伝統的なメディア媒体、Google Earth のような革新的なツールを活用し、ホープスポットの存在を世界に知らしめるための活動をおこなっています。ミッションブルーは重要なエコシステムに光をあてそれらの保全のためのサポートを構築するために定期的な海洋探検を行っています。またミッションブルーは、海洋保護のための市民活動を促す世界中の NGO 団体へ、サポートを提供しています。ミッションブルーには、200 以上もの、志を同じくする協力団体がいます。

<https://mission-blue.org/>

日本自然保護協会 (NACS-J) について

自然保護と生物多様性保全を目的に、1951 年に創立された日本で最も歴史のある自然保護団体のひとつ。会員 2 万 4 千人。ダム計画が進められていた尾瀬の自然保護を皮切りに、屋久島や小笠原、白神山地などでも活動が続けて世界自然遺産登録への礎を築き、今でも日本全国で壊れそうな自然を守るための様々な活動を続けています。「自然のちからで、明日をひらく。」という活動メッセージを掲げ、人と自然がともに生き、赤ちゃんから高齢者まで美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会を目指して活動している NGO です。山から海まで、日本全国で自然を調べ、守り、活かす活動を続けています。

<http://www.nacsj.or.jp/>

◆プレスリリース 連絡先:

1) ミッション・ブルー

コミュニケーションズ・ディレクター

ブレット・ラブマン

Brett Loveman, Director of Communications

Mission Blue

bloveman@mission-blue.org

2) 日本自然保護協会

104-0033 東京都中央区新川 1-16-1 ミトヨビル 2F

(公財)日本自然保護協会

TEL 03-3553-4103/FAX 03-3553-0139

担当: 自然保護部 主任 安部真理子

携帯 080-5067-0957

e-mail: abe@nacsj.or.jp